

# 眼科学における機能評価法特論

## Advanced Course of Ophthalmology

### キーワード

- ① 眼科疾患
- ② 自律神経
- ③ 交感・副交感神経
- ④ 瞳孔検査
- ⑤ 瞳孔計

### 授業概要

自律神経機能評価に用いられる瞳孔検査を習得し、歯科領域臨床研究への応用を探る。講義内容としては、瞳孔の解剖学、生理学、薬理学を概説する。瞳孔の大きさ、動きは自律神経（交感神経、副交感神経）でコントロールされており、その大きさや運動を電子瞳孔計で観察することにより、他覚的にかつ非侵襲的に自律神経の評価が可能であり、咬みあわせや口腔内環境の不良例など、各種歯科疾患の治療前後で瞳孔検査を行うことで、治療効果を他覚的に評価できることから、その理論と実際を講義する。

### 授業科目の学修目標

瞳孔検査によって、各種歯科疾患の治療効果を他覚的に評価できる。

### 授業計画

- ① 眼科疾患と瞳孔総論 10コマ 榎木恵一
- ② 瞳孔の解剖、生理、薬理学 10コマ 榎木恵一
- ③ 瞳孔検査学 5コマ 榎木恵一
- ④ 瞳孔検査を用いた医歯学研究計画立案法学 5コマ 榎木恵一

### 教科書および参考書

イラスト眼科 (Bunkodo Illustrated Basic Series)、文光堂、渡辺 郁緒 (著)、新美 勝彦 (著)

### 履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

教科書、または参考書の指定された部分を一読し、基礎的な知識を得ておく。

### 大学院生が達成すべき行動目標

- ① 眼科疾患と瞳孔についての基礎知識を修得する。
- ② 瞳孔の解剖学、生理学、薬理学を理解する。
- ③ 瞳孔検査法を理解する。
- ④ 瞳孔検査法を用いた研究計画が立てられる。

### 評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
70%	0%	20%	0%	0%	0%	10%

### 評価の要点

- ・試験による理解度を判定する。1回70%
- ・レポートは瞳孔検査を用いた研究計画を記載してもらう。1回20%
- ・その他は瞳孔検査を実践してもらう。1回10%

### 理想的な達成レベルの目安

全体的な達成レベルは70%以上とする。